



特定非営利活動法人

日本分子生物学会

The Molecular Biology Society of Japan

Jinzai Kaihatsu Bldg. 4F, 2-11-5 Iidabashi, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0072, JAPAN  
FAX: +81-(0)3-3556-9611 E-mail: info@mbsj.jp URL: http://www.mbsj.jp/

平成 25 年 8 月 7 日

東京大学 総長 殿

特定非営利活動法人 日本分子生物学会  
理事長 大隅典子



加藤茂元分子細胞生物学研究所教授の論文不正問題に関する  
要望書

日本分子生物学会の活動に対する日頃よりの、貴大学のご支援に感謝いたします。

本学会は表記の件の重大性を受け、事実に基づいた適切な対応をするために、平成 24 年 11 月以来、書面にて調査内容の早期開示を要望してまいりましたが、現在に至るまで、公表はなされておられません。一方、平成 25 年 7 月 25 日付の朝日新聞朝刊をはじめとして、幾つもの新聞報道が相次いでおり、とりわけ今回の新聞報道では、貴大学の調査委員会報告書に触れられてはおりますが、内容の真偽については、貴大学の正式報告がない以上、私ども学会関係者には判断が困難であり、一般の国民の方々にも判断できないと思われまます。また、今回は、加藤元教授自身の新聞社に対する質疑応答が掲載されておりますが、加藤氏側の発言のみが大きく報道されており、それがこの問題の真の解決に対して大きな支障となることを、本学会は以下のように危惧いたします。

第一に、今回、加藤元教授は新聞社に対して、研究室の運営方法が多数の不正を招いた点について認めつつ、自身の責任は監督の不備に留まるという印象の発言をしております。何ゆえにこのような事態が起こったのかは、今後の対策を考える上で極めて重要な点ですが、この加藤元教授の発言主旨は貴大学の調査委員会の見解と一致するものでしょうか。また、加藤元教授のスタッフ、研究室員側からの事情聴取結果と同じなのでしょうか。疑問が残ります。

第二に、加藤元教授の発言では、調査委員会からの43論文の撤回に応じたとしていますが、それがどの論文でどの部分なのか、どのような不適正な内容なのか判然としません。科学はこれまでの発表成果を基に進むものですから、貴大学としては、この内容について即時公表すべきと考えます。

第三に、上記の撤回論文について、一部の報道では、それが単なる図の差し替えの問題だけであり、論文の科学的内容に不適切な点はなかったかのような表現になっております。これも貴大学の調査委員会の見解と一致しているのでしょうか。委員会報告書が求めているとされている”撤回”と”訂正”のそれぞれが正確に何を意味するのか、これも今後の対策を考える上で極めて重要です。貴大学からの公表が必要不可欠と考えます。

この問題の責任の所在が不鮮明なままに時間が経過することは、科学に対する国民の信頼性を大きく失わせる結果になることを、本学会は危惧しております。調査・確認が大変困難な作業であることは十分承知しておりますが、すでに少なからぬ時間が経過しておりますので、貴大学が調査委員会報告を早急に、しかも全面的に開示されることを強く要望いたします。